

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和4年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰ほか『基本簿記原理』(第2版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株主の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト80%, 小テスト20%			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 授業外対応
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か: 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1): 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2): テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3): メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4): マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理(1): 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理(2): 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理(3): 人事異動(初任配置・配置転換・昇進など)について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(4): 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理(5): 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理(6): 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か: リーダー(上司)として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	労務管理論		担当者	近間 由幸
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 梶原豊・吉村孝司編『働き方改革時代の人的資源管理』同友館 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働き方』ミネルヴァ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション - 講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 筆記試験 (70%)			

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦
	[履修年次]	1年,2年いずれも履修可	授業外対応	
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生は作成した事業計画を発表する。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教員が配布する。</p> <p>(2) 『「管理会計の基本」がすべてわかる本』 金子智朗著 (2009) 秀和システム</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、原価の性格</p> <p>第 2 回 事業計画の作成 (発表課題)</p> <p>第 3 回 短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる)</p> <p>第 4 回 短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定)</p> <p>第 5 回 アウトソーシング、追加受注</p> <p>第 6 回 商品別の利益管理</p> <p>第 7 回 事業別の利益管理</p> <p>第 8 回 中間試験</p> <p>第 9 回 長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV)</p> <p>第 10 回 長期的意思決定 2 (IRR、回収期間)</p> <p>第 11 回 予算管理</p> <p>第 12 回 予算と実績との差異分析</p> <p>第 13 回 コストコントロール 1 (重要性と ABC)</p> <p>第 14 回 コストコントロール 2 (原価企画)</p> <p>第 15 回 ブランドの企業業績への効果</p>			
授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。			
成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3 の比重で評価する。さらに発言点も加える。			
実務経験について	入社から定年退職まで約 37 年間、日産自動車 (株) にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。			

授業科目	原価計算	担当者	宗田 健一	
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価はソフトウェアや基幹システムなどに基本的なデータを入力すれば自動的に計算されます。しかし、システムがどのような計算過程を経て原価を計算しているのかわらなければ、システム構築や改善はできません。この講義では、原価計算の基礎について、論説し、計算問題を繰り返すことで原価計算を学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の理論的な理解、計算能力の獲得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価計算』(第3版)中央経済社</p> <p>(2) 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、原価および原価計算の基礎知識</p> <p>第2回 原価の費目別計算</p> <p>第3回 製造間接費の計算</p> <p>第4回 単純個別原価計算</p> <p>第5回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算</p> <p>第6回 中間レポート</p> <p>第7回 単純総合原価計算</p> <p>第8回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第9回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第10回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第11回 標準原価計算 1</p> <p>第12回 標準原価計算 2</p> <p>第13回 直接原価計算</p> <p>第14回 CVP分析</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。			
成績評価の方法	中間レポート(30%)、期末レポート(70%)			

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済みであることが望ましい。もしくは、日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	経営学特講Ⅰ	担当者	田原 武志 東 圭太	
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。</p> <p>(2) 無し。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表</p> <p>~第14回 (テーマ例)</p> <p>「隠れた経営資源に気づく」</p> <p>「目的、目標の設定の重要性を認識する」</p> <p>「継続的改善の仕組みを取り入れる」</p> <p>「企業の果たす社会的責任について認識する」</p> <p>「トレンドを把握する」</p> <p>「コンプライアンス(法令遵守)が求められる社会的背景と必要性の考察」</p> <p>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」</p> <p>「投機と投資の考察」等々</p> <p>第15回 まとめ 試験対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習(課題が毎回発表)と復習(講義のまとめ)のレポート作成があります。			
成績評価の方法	レポート提出(25%)、授業での発表(25%)筆記試験(50%)			
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。			

授業科目	経営学特講Ⅱ		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1,2年	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択
	[授業外対応]	[適宜対応 (要予約)]	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーやグループ・ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、他の学生と議論し皆の前で発表することに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代の特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第3回 多国籍企業の経営環境（1）：グローバル化を中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第4回 多国籍企業の経営環境（2）：各種資料を用いて、経営環境の現代の特徴を考える。</p> <p>第5回 多国籍企業の経営環境（3）：グループ・ワークを通じて、現代の経営環境について議論する。</p> <p>第6回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第7回 多国籍企業の活動（2）：グループ・ワークを通じて、多国籍企業の経営戦略について議論する。</p> <p>第8回 市場戦略の現代の特徴（1）：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第9回 市場戦略の現代の特徴（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第10回 市場戦略の現代の特徴（3）：グループ・ワークによって、多国籍企業の市場戦略について考える。</p> <p>第11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（1）：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（2）：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係（3）：グループ・ワークによって、これまでの内容を検討する。</p> <p>第15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパー、グループ・ワーク、授業に取り組む姿勢など（30%）			

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択
	[授業外対応]	[適宜対応 (要予約)]	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】情報社会の現在、多様な情報の取捨選択が問題となっている。また、有効な情報を無数のデータの海から選り分け、意味のあるものとして加工する能力も必要とされている。このような作業を情報管理ととらえることができるが、実はこの作業の基礎には、情報とはそもそもどのようなものなのか、情報を管理することによって何をしようとしているのか、どの視点から情報を捉えようとしているのか、といった単に情報管理技術だけではなく、社会科学的な知識も必要となる。そこで、この授業ではこの点を意識しながら、情報を巡るさまざまな考え方について講義をおこなうことにする。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。企業での情報の効果的な活用について考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第3回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第4回 情報(化)社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第5回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第6回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第7回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第8回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。</p> <p>第9回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。</p> <p>第10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			

授業科目	会計情報論		担当者	岡村 雄輝	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務諸表を利用して企業分析ができるようになる</p> <p>【概要】本講義は、担当者が企業の会計情報を分析し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の会計情報を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】財務諸表分析を通して企業研究ができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』、日経文庫。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第2回 会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計</p> <p>第3回 事例研究①：アパレル企業数社の収益性</p> <p>第4回 会計情報の読み方（1）：収益性の分析</p> <p>第5回 会計情報の読み方（2）：成長性の分析</p> <p>第6回 会計情報の読み方（3）：安全性の分析①</p> <p>第7回 会計情報の読み方（4）：安全性の分析②</p> <p>第8回 事例研究②：アパレル企業数社の安全性</p> <p>第9回 ビジネスプランを練る：損益分岐点分析とDCF法</p> <p>第10回 有価証券報告書を読む（1）：有報の読むポイントを知る</p> <p>第11回 有価証券報告書を読む（2）：非会計情報から事業の概況を把握する</p> <p>第12回 会計情報分析の実践（1）：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析</p> <p>第13回 会計情報分析の実践（2）：成長性分析</p> <p>第14回 会計情報分析の実践（3）：安全性分析</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	有価証券報告書等の企業情報を積極的に収集し、精読してください。				
成績評価の方法	期末レポート100%				

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知識を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。</p> <p>第5回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第6回 M&Aと戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&Aの戦略上のメリットとデメリットを解説する。</p> <p>第7回 M&Aと戦略的提携（2）：主に戦略的提携について講義する。M&Aとの相違点を考える。</p> <p>第8回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第9回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第10回 経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を再確認する。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を解説する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験(100%)				

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論の学修を前提として講義を展開します。また、財務会計を学ぶためには複式簿記の理解が欠かせません。簿記論の併修を勧めます。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』(第23版), 中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』(第12版), 中央経済社。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。				
成績評価の方法	期末レポート80%、中間レポート20%				

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとって、マーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、より理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、消費者の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。</p> <p>第8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略(1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略(2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクトを探してみよう。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験(80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど(20%)				

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われ現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン - 流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2回 流通とはなにか</p> <p>第 3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12回 小売・流通における労働問題 (1) - 物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13回 小売・流通における労働問題 (2) - 接客販売業の働き方</p> <p>第 14回 デフレ支援型流通と消費行動の変化</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%) 期末レポート (70%)							

授業科目	経営工学		担当者	倉重 賢治				
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2 単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】</p> <p>現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	期末試験 (100%)							

授業科目	応用データ活用		担当者	倉重 賢治				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフト Access の使い方を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2回 Access の操作：Access とは 第 3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第 4回 Access の操作：レコードの追加 第 5回 Access の操作：フォームの作成 第 6回 Access の操作：選択クエリの作成 第 7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第 8回 Access の操作：アクションクエリ 第 9回 Access の操作：データベースの設計 第 10回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 11回 Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12回 Access の操作：レポートの作成 第 13回 Access の操作：レポートのアレンジ 第 14回 Access の操作：マクロの利用 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)							

授業科目	プログラミング		担当者	倉重 賢治				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤潔人、『いちばんやさしい ExcelVBA の教本』、インプレス (2) 特になし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	講義中の小テスト (50%) + 期末試験 (50%)							

授業科目	簿記論Ⅲ		担当者	今村 明代
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営内容の把握に役立つ商業簿記を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記2級レベルの商業簿記のテキストとワークブックを使用して、種々の取引の会計処理方法や記帳方法、各種計算書類の作成方法を解説し、問題演習に取り組みます。単なるパターン学習ではなく、背後に存在する考え方を理解することを意識して取り組みましょう。</p> <p>【到達目標】商業経営における種々の取引の会計処理方法や記帳方法を理解し、財務諸表（損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、精算表）を作成することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記2022年度版』中央経済社 及び 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続と財務諸表</p> <p>第2回 現金預金と売掛金、手形</p> <p>第3回 有価証券、その他の債権・債務</p> <p>第4回 商品売買</p> <p>第5回 固定資産</p> <p>第6回 引当金、収益と費用</p> <p>第7回 株式会社の純資産（資本）</p> <p>第8回 税金、リース会計</p> <p>第9回 外貨建取引</p> <p>第10回 税効果会計、決算：決算整理</p> <p>第11回 決算：財務諸表の作成</p> <p>第12回 決算：株主資本等変動計算書</p> <p>第13回 決算：精算表</p> <p>第14回 本支店会計、連結会計</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習と復習を毎回確実に行うこと。「予習→授業→復習」のくりかえしにより簿記の学習効果は着実に上がります。			
成績評価の方法	筆記試験70%+小テスト30%。詳細は1回目の授業で説明します。			
実務経験について	外資系銀行東京支店の人事・会計部門での実務経験を有する（6年間）。			

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版「よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級 知識科目 公式問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(30%)＋授業中の課題(40%)＋期末試験(30%)			

(注)「情報科学概論」(担当：岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする